

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地地域連絡会議 令和2年度第1回西表島部会 議事概要

■日 時：令和2年11月5日（木） 18:00～20:30

■場 所：竹富町離島振興総合センター

■出席者（敬称略）：

区分	所属等	役職	氏名
管理機関	環境省沖縄奄美自然環境事務所	国立公園企画官	浪花 伸和
		自然保護官	森本 龍平
		自然保護官	木富 正裕
		上席自然保護官	竹中 康進
		自然保護官	北浦 賢次
	林野庁沖縄森林管理署	地域林政調整官	飯星 明
		森林整備官	角田 みなみ
		森林官	石綿 深志
		森林官	小崎 凌平
	林野庁西表森林生態系保全センター	所長	草野 秀雄
		生態系管理指導官	永山 博美
	竹富町世界遺産推進室	室長	通事 太一郎
		室長補佐	仲盛 敦
		主幹（兼）係長	安生 浩太
	竹富町教育委員会社会文化課	課長	亘間 正八
	沖縄県自然保護課世界自然遺産推進室	室長	島袋 直樹
		主査	太田 真文
主査		中村 良	
主任		古田 さゆり	
沖縄県観光振興課	主任	宮里 耕平	
地元関係団体	西表島・東部地区（大原区）		玉盛 雅治
	西表島・西部地区（上原地区）		庄山 守
	西表島・西部地区（白浜区）		屋良 誠一
	竹富町観光協会	副会長	大島 佐喜子
	竹富町ダイビング組合	世界自然遺産担当	笠井 雅夫
	西表島エコツーリズム協会	事務局長	徳岡 春美
	西表島カヌー組合	組合長	吉田 隆志
	沖縄県猟友会 竹富町地区	地区長	河合 正憲
運輸・交通事業者	西表島交通グループ	代表取締役社長	玉盛 雅治（再掲）
	いりおもて観光（株）	代表取締役社長	屋宜 靖
	八重山観光フェリー（株）	常務	黒島 一博
関連NPO・研究機関	NPO法人 どうぶつたちの病院 沖縄	動物看護師	水野 早紀
	NPO法人トラ・ゾウ保護基金西表島支部やまねこパトロール	事務局長	高山 雄介
	琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設	副施設長	渡辺 信
運営事務（受託者）	株式会社プレック研究所	理事	松井 孝子
		主査	西村 大志
傍聴者			

■議 事

1. 行動計画の進捗状況について
2. 行動計画の評価指標について
3. その他

■資 料

- 資料 1 - 1 西表島行動計画の事業進捗状況とりまとめ結果（令和 2 年 9 月現在）
- 資料 1 - 2 西表島行動計画の事業進捗状況図（令和 2 年 9 月現在）
- 資料 2 - 1 地域別の行動計画に関する年間の管理フロー（案）
- 資料 2 - 2 西表島における管理成果の評価指標（案）
- 資料 2 - 3 西表島における管理成果の評価シート
- 資料 3 来訪者管理基本計画に関する取組状況
- 参考資料 1 西表島部会 設置要綱
- 参考資料 2 西表島行動計画
- 参考資料 3 西表島行動計画に係る完了事業一覧（平成 30 年度までに完了した事業）
- その他資料 1 西表島の適正な観光管理に関する枠組
- その他資料 2 竹富町観光案内人条例の概要
- その他資料 3 西表島エコツアーリズム推進全体構想（全体構想）の概要
- その他資料 4 竹富町ねこ飼養条例改正に向けて パンフレット
- その他資料 5 竹富町イリオモテヤマネコ保護基金 パンフレット
- その他資料 6 沖縄県希少野生動植物保護条例 パンフレット

■議事概要

○会議冒頭、環境省より次回の世界遺産委員会が 2021 年 6 月～7 月の間に開催される予定であることについて説明が行われた。

議題 1. 行動計画の進捗状況について

○沖縄県より資料 1 - 1 及び資料 1 - 2 に基づき行動計画に関連する事業の進捗状況について説明が行われ、各取組の実施主体である機関から適宜補足説明が行われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

- ・今回はコロナ対策で傍聴無しにしているとのことだが、きちんと対策を取れば傍聴者を入れるスペースはある。西表島のことを、西表島の外の人で決めてしまっている。どのように進められているのか、住民が傍聴する権利を奪わないでほしい。（西部地区 庄山）
- 今回は調整が間に合わなかったが、第 2 回の部会では傍聴できるようにしたい。（沖縄県 島袋）
- インターネットでの会議や傍聴は西表島では難しいか。それも考えてもよいと思う。（環境省 浪花）
- インターネットでの参加は難しい（西部地区 庄山）
- ・本日の資料が事前に PDF で送付されていたが、それをカヌー組合のメンバーに配布してもよいか。（カヌー組合 吉田）
- 問題ない。資料等はできるだけ早く奄美・沖縄世界自然遺産のウェブサイトにも掲載する。（沖縄県

島袋)

- ・地元住民が一番身近に感じる自然環境の問題はロードキルである。7 ページのロードキル対策の事業のうち、沖縄県のうちな一ロードセーフティー事業が未実施のままになっているがそれでいいのか。また、10 ページの持続的観光マスタープランはどのくらいの期間で見直しを行うのか。(いりおもて 観光 屋宜)

→うちな一ロードセーフティー事業については、道路の改修のタイミングで行うと聞いているが、まだそのタイミングが来ていない。担当課に意見があったことは伝えたい。マスタープランについては議事3で説明するが、令和3年度に指標と基準値の見直しを行う予定である。(沖縄県 島袋)

→地元でも草刈り等は行うが、県の事業もぜひ検討してほしい。(いりおもて 観光 屋宜)

- ・10 ページの赤土関連の取組について、赤土がたくさん出ていて、要望しているが対策は取られていない。モニタリングではなく対策が必要だと思う。パイン畑が広がっており、各農家が努力しているが雨が降ると赤土が流出してしまう。大学の研究成果などを利用して抑えられないか。また、p16の「5環境に配慮した公共事業の実施」の項目に関連して、県の八重山土木事務所が浦内川の架け替えを行う予定であり、9月に説明会が行われた。説明会の開催が遅く、マングローブを埋め立てるなど環境配慮もしていないと非難を受けていた。橋の材質についても100年コンクリートとされているが、日本の大きな橋と同じく鉄骨にしてはどうかという意見もあった。新聞によれば、仮橋をつくって同じ場所に新しい橋を架けるということだったが、今の橋を仮橋にして上流側に新しい橋を架ければよいという意見もあった。説明会には50人くらい参加しており、関心も高いので、「5」の項目は具体的にしたいほうが良い。(観光協会 大島)

→赤土の件については、関係課と役割分担をして取り組んでいる。対策事業も行っているが、今日いただいた意見については環境保全課にも伝える。浦内川の架け替え工事の件については、担当の八重山土木事務所に情報として伝えてたい。(沖縄県 島袋)

→環境省として浦内川の架け替え工事に関する会議に出席していたので情報共有したい。その会議の中で説明会の後魚類の有識者からも意見があつて、モニタリングを行うのか、シミュレーションを行うのかといったことを検討していた。変更についてはできるだけ早く住民説明会をやりたいと聞いている。環境省としても関心があり、しっかりと確認していきたい。(環境省 竹中)

→西表島で公共工事をやる時に、計画を決めてから説明をすると、研究者もたくさん入っている島なので、いろいろ意見が出てくる。浦内川の架け替えについても必要性は理解しているが、計画段階から地元の間人も入れていくとスムーズに進められると思う。世界自然遺産になるにあたって、途中で説明を行ってクレームがつくとハードルが高くなる。(猟友会 河合)

- ・竹富町の自然環境保護条例について、保護推進員はまだ機能していないのか。あと、昆虫採集者は石垣島で禁止されたので西表島に来ているとも聞く。対象種の改正のめどはどうなっているか。(エコツアー協会 徳岡)

→保護推進員については、町全体で9名委嘱しようとしたが、他の島も含めると適任者がいない状態であった。町全体ではなく西表島だけでもスタートする方針を考えたい。種や保護区の指定については、昨年度検討を行おうとしたが、コロナの影響で有識者も入れず実施できていないが、次の委員会で検討したい。(竹富町 仲盛)

議題2. 行動計画の評価指標について

○西表島における管理成果の評価指標(案)について、沖縄県自然保護課より資料2に基づき説明が行

われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

- ・希少植物について琉球大学で調査を行っている。データ提供者の欄に記載されていないが不要ということか。また、資料 2-3 に総合評価として色や矢印で表示されているが、見た目には面白いが言葉だけだと「懸念の悪化」等となりわかりづらい。単純に A、B、C などとして、「A-C」といったように示したほうが分かりやすいのではないか。(琉球大学 渡辺)

→データの提供はぜひお願いしたい。A、B、C といった記載方法も取り入れられるか検討したい。(沖縄県 島袋)

- ・1 年毎と 5 年毎の指標があるが、いつが最初の年か。遺産登録の時がスタートなのか。また、良好といった判断をどうやって調べて誰が行うのか。次回につながるようなデータのとり方をしてほしい。5 年周期は長すぎると思う。旅行のトレンドは 1 年で変わる。データをせっかくとるなら短いスパンで取ってほしい。また指標 D と F について継続的なデータの取得が検討中では問題があるのではないか。(いりおもて観光 屋宜)

→指標 D と F については予算があてられるかどうか不確定な部分があるためこのような書き方になっているが、予算確保に努める。指標の期間については、短くできるものもあるかどうか検討する。(沖縄県 島袋)

→スタートの時期は指標によって違うので、次年度試行的にデータを取得したうえでいくつか案を出して決めていきたい。(沖縄県 古田)

- ・河川の OUV は変わってきている。環境省が国立公園のモニタリングを行っており、エコツアー協会も魚類のモニタリングを行っている。基準年よりも下がっていたら対策をしないとということになる。そういうデータを活用してほしい。(猟友会 河合)
- ・観光案内人条例について、免許がないと案内できないのは一般利用ゾーンも含む全域か。また、罰則はあるのか。(琉球大学 渡辺)

→免許がないと案内できないのは陸域全域となる。現時点では罰則はないが、行政処分として事業者名の公表などを行う。現在罰則を含める改正を検討しているところである。(竹富町 安生)

- ・昆虫採集の人が増えている。石垣島で禁止された影響だと思う。条例で、西表島で昆虫採集を行う場合パトロールに求められたら荷物の中身を見せたり、身分証明書を見せたりさせるように、強制をかけることまではしなくても、そういう表現を使えないか。(琉球大学 渡辺)

→現時点では条例の改正予定はないが、より強い抑止力について、その案も含めて検討していきたい。(竹富町 通事)

議題 3. その他

○持続可能な西表島のための来訪者管理基本計画に関する取り組みについて、沖縄県自然保護課より資料 3 に基づき説明が行われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

- ・昨年度の検討の中で、計画ができたことを西表島の外の旅行会社などにも発信していかなければという話をしてしたが、それが重要である。先週ツーリズムエキスポで竹富町とともに旅行会社 20 社に来訪者管理基本計画等のことを話してきたが、かなり関心を持って聞いてくれた。県としても、今年度外向きの PR を進めてほしい。(環境省 竹中)

→周知等も一緒に前向きに取り組んでいきたい。(沖縄県 中村)

- ・1日1230人を基準としてそれを超えないように誘導する仕組みを導入するということが、具体的にはどんなことか。(琉球大学 渡辺)
- 混雑カレンダーを作成し観光客等に向けて周知することで、利用の抑制、分散を図る。(沖縄県 中村)
- 数を厳格に管理するというよりは情報を流して誘導するということか。(琉球大学 渡辺)
- 令和元年度はゴールデンウィークや正月に利用の集中する日があった。周知を行うことで混雑時期の利用集中を避けるように誘導したい。(沖縄県 中村)
- 難しいと思うので理想としての話だが、アメリカの国立公園では一括で利用人数を管理しており、ウェブサイトで登録を行い上限に達すると入れないようにしている。西表島で事業を行う以上、西表島に客を入れるときに入力してもらうようにできるとよい。そうすると、容量がいっぱいになっているかどうかわかるのに加えて、事業者が遵守しているかどうか分かる。(琉球大学 渡辺)
- 現時点では、各フィールドではなく西表島全体の入域者数の管理を想定しており、そういった手法を取るの難しいと思う。(沖縄県 中村)

以上